



給水課での仕事は、  
新しい生活を始める方のお手伝いができる、  
素晴らしい仕事であると実感しています。

土木技術職 水道局 給水課

弓場 康加 (ゆみば やすか)

平成28年度入庁

## なぜ、倉敷市職員に？

私は大学時代を沖縄で過ごしました。沖縄では、日々の生活の中で、伝統と文化の引継ぎを大切にしていること、まちづくりが地域の特色に特化していることを強く感じました。地元を愛する人々が、地元をより良くしようとまちづくりに力を尽くしている沖縄で土木学を学ぶにつれて、私の出身地である倉敷市のまちづくりに携わりたいと思うようになり、倉敷市職員を志望しました。

## 現在担当している仕事内容は？



皆さんが住宅を新築する際、重要なライフラインである水道の新設は不可欠ですが、私が所属する給水課では新設する水道管の申請手続きと、工事の設計・施工管理を担当しています。

私の業務の流れとしては、水道管の申請を受けた後、現地調査・測量・図面作成・積算という段階を踏んで設計を行います。設計では費用のことだけでなく、周辺環境・維持管理の利便性・施工時における安全性を考慮しつつ地元調整を行い、その現場にふさわしい設計を心がけています。工事を発注すると、施工業者とともに材料検収・現地立会を行い、施工方法を十分確認した上で工事に取りかかります。その後、しゅん工書類の確認を終え、無事検査に合格すると完工となります。

水道工事には断水が伴います。生活に必要な不可欠な水を止めてしまうため、地域住民の方への説明と意見交換が大切であると感じています。どうしても断水が行えない店舗や病院が断水範囲に含まれる場合には、給水車を使い給水活動を行うこともあります。そして、工事後には、地域住民の方に安心して水を使っていただけるよう、残留塩素等の測定をし、責任を持って安全性を確認しています。

今までで印象に残っている工事は、山間部での水道管新設工事です。道幅も狭く、施工状況も悪い中での工事でしたが、無事完工した際には、水を必要とされている方へ届けことができた達成感により、自分の仕事にやりがいを感じる事ができました。

給水課での仕事は、新しい生活を始める方のお手伝いができる、素晴らしい仕事であると実感しています。

## 倉敷市職員になってよかったことは？

スキルアップのための研修制度が充実していることです。水道局では、年に数回、技術職を対象とした勉強会が開かれ、担当業務ではない部署のことや最新の技術について学ぶことができます。そのため、水道全般のことがイメージでき、その中での自分の業務の意義を見出せるようになりました。

また、平成29年10月には、大規模災害を想定した応急給水訓練に参加しました。訓練としては、全国で初めてEMIS(病院が自治体にライフラインの状況などを発信できるシステム)を運用し、貴重な経験が得られました。それと同時に、災害時の私たちの業務の重要性を感じ、責任の重さを再確認することができました。

また、職員として働いてみると、以前は知らなかった倉敷の特色、一度離れたからこそわかる倉敷の良さを知り、より倉敷市を誇りに思うようになりました。



## 志望者に向けてメッセージ

私は日々の業務の中で難題を前に立ち止まってしまうことがよくありますが、その時に後押ししてくれるのは、今までの自分の経験であると感じています。ひとつのことに一生懸命取り組んだ経験が自信となり、原動力となるとと思いますので、皆さんには働くまでの間に、勉強・部活・遊びなど何でもいので一生懸命に取り組む経験をしてほしいと思います。倉敷市職員として、同じ志のもとで一緒に働くことを楽しみにしています。